



お江戸舟遊び 1113号

水彩都市江東 こころ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

江東区助け合い活動連絡会第18回研究会「水害避難と助け合い」

日時： 25年7月25日(月) 13:30~15:30

所： 江東区文化センター・サブプレホール

1. 開会挨拶：小林孝事務局長

十島地震などが繰り返されている。防災のため今こそ荒川氾濫を知り自分事として関わる必要がでてきた。

2. 話題提供「1755年リスボン地震と荒川氾濫」中瀬勝義

① 1755年リスボン地震

- まだ来っていない荒川氾濫水害を想定するのに参考になるのは270年前の1755年リスボン地震で、当時のリスボン市民の1/3の9万人が亡くなり、建物は85%崩壊し、当時の覇権国ポルトガルはその後立ち直れなかった。

② 首都を襲う荒川氾濫・最大の災害要因・マイナス地域が発生した。

- 100年前の関東大震災時にはマイナス地域はなく、火災で9万人、家屋倒壊で1万人が亡くなった。その後工業が発展し、工業用水に地下水を汲み上げ続け、地盤が沈下し、南砂では-3~5mとなるなど、江東5区最大の災害課題が発生した。荒川氾濫は国交省荒下作成の『荒川氾濫』

フィクションドキュメンタリー「荒川氾濫」令和3年3月改訂版で連想ができる。

③ 首都直下地震・台風大型化・荒川氾濫

- 首都直下地震は、今後30年で70%の確率と予測され、荒川氾濫・停電・断水・交通マヒ・通信障害が予想される。2019年台風19号で荒川が決壊寸前で、荒川の水位は隅田川の堤防の天端よりも高くなったが、荒川から隅田川への岩淵水門を閉じ、助かった。江東5区広域避難推進協議会のハザードマップは「**ここにはダメです」「浸水のおそれがないその他の地域へ**」と明示しているが、避難所や避難ルートは示されていない。住民は250万人で1階や地下階のスーパーとコンビニに依存する**住民の食生活崩壊も！地下鉄は出入り口から浸水し、霞が関までも浸水が及び、大変危険だ！**

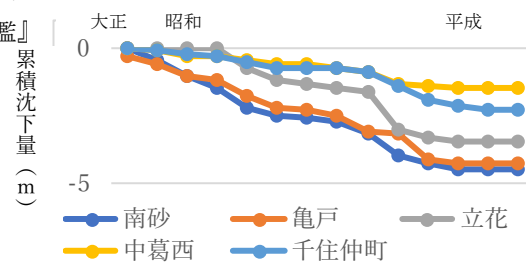
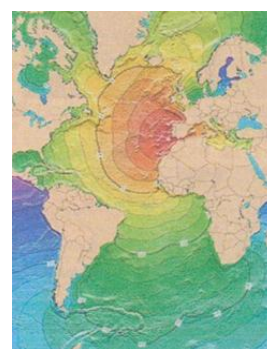
④ 水害避難支援システムー避難場所づくり

- 3・11東日本大震災の三陸現地調査を行い、高い防潮堤で津波から人々の命を守るには、ハードだけでは難しく、ソフトな避難支援システムが必要となった。中央大学有川研究室が進めているARを活用してスマホに示す「水害避難支援システム」が現在最も期待できる防災手段と思う！

3. 講演：「水害避難と助け合い」 有川太郎中央大学理工学部教授

1. 江東5区大規模水害避難計画：大規模水害による犠牲者ゼロのために『自主的に早目の広域避難』

- 江東5区では広域避難が必要だ。巨大台風、大規模洪水、交通マヒなどが対象だ。
- 広域避難の対象と避難勧告等について：荒川と江戸川の洪水に対するすべての住民。
- 避難の方法は：避難行動・避難場所、要配慮者、避難手段について予め決めておく。
- 行政としての今後の課題：関係機関の役割・連携体制、治安対策、意識の共有・啓発
- 広域避難勧告・域内垂直避難指示（緊急）等の発令基準：避難行動は自己の判断・自己責任



2. 高潮・洪水からの避難支援システムの構築

- ① 高潮データベースと既存台風経路を用いて「高潮遭遇確率の低い経路」を算出
- ② 最大クラスの浸水確率分布を作成し、浸水低確率の避難経路を算出
- ③ 既往最大浸水ケース + 既往台風想定経路の浸水ケースを算出し、区民のスマートフォンに最適避難経路を表示し、各自の避難行動を支援する。



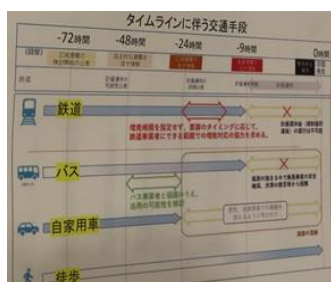
3. 広域避難アンケート WS 有川先生+学生 6 人

- 4 テーブルに分かれて実施した。
- (1) 有川先生が、高潮避難について話され、参加者にアンケートを配り、巨大台風が 72 時間後に東京接近の天気図を見て、どう行動するかを、講義の前に記入して欲しいと要請した。
- (2) 国や自治体は情報を出す、各自の判断で避難行動をとる仕組みになっている。公共交通機関は 24 時間前までは広域避難が可能だが、いよいよ接近の場合は垂直避難しかないと言われた。さらに、自宅周辺の避難経路を示す水害避難支援システムアプリをあらかじめスマホに登録し、より安全に避難することができるよう研究室で取り組んでいると説明された。
- (3) 講義後グループに分かれ、アンケートをベースにワークショップを行った。

(アンケート) Q1. 天気予報を見て、あなたは避難しようと思いませんか？

Q2. Q1 で「はい」と答えた方は、いつ頃（氾濫の何時間前に）避難開始しましたか？

Q3. Q1 で「はい」と答えた方は、避難手段は何を想定していますか？



(WSでは) 初めは避難などできないと思っていたが、講義を聞いて考えが変わった。

避難場所が不明。公共機関が動いているうちに避難を。早目の避難情報を得て、自己の責任で避難行動をとらなければいけない。

何日も外に出られない避難所に情報が欲しい。

早目の情報が欲しい。避難が長期になるならば垂直避難が現実的。自分の命は自分で守る。スマホを使いこなせない人はどうするかなどたくさんの課題や意見が出された。



所感：「江東区助け合い活動連絡会」の第 18 回

研究会に参加。連絡会は、住民主体の助け合い活動を進め、50 団体が参加し、年 3 回の研究会を行っている。今回は、3・11、能登半島、トカラ列島など地震が頻発する中、「水害避難と助け合い」がテーマだった。江東区は、ゼロメートル・マイナス地帯の海面より低い地域が広がっている。

地球温暖化による巨大台風で長期間浸水も懸念される。一人ひとりが自分事として、首都直下地震、巨大台風による水害に対する個人避難計画を作ることが望まれている。誰一人取り残さない SDG s 精神で、有川研究室の水害避難支援システムの研究進展に期待したい。（文責 中瀬）